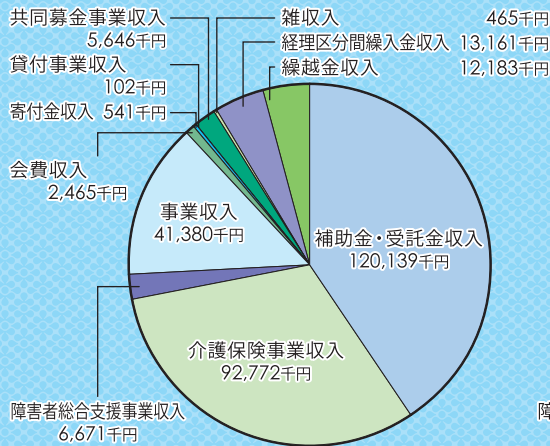


令和4年度 城里町社会福祉協議会決算

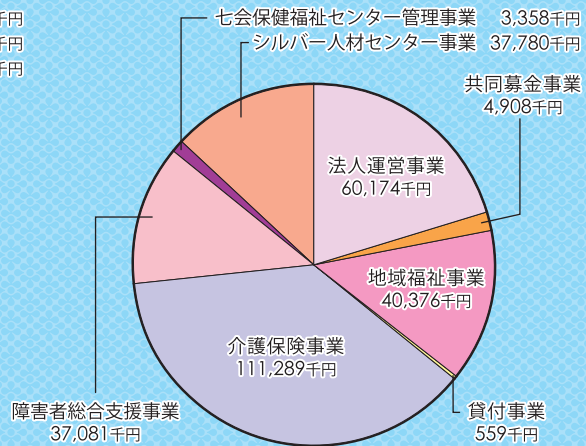
収入の部

収入 2億9,552万5千円



支出の部

支出 2億9,552万5千円



◆令和4年度 事業実績報告◆

会務の運営	理事会 3回開催	評議員会 3回開催	監事会 1回開催
社協会費	一般会員 4,434世帯	2,200,000円	
	特別会員 61名	197,000円	
共同募金運動	赤い羽根共同募金	3,959,254円	
	歳末たすけあい募金	1,769,002円	
広報紙の発行 広報委員会	「かざぐるま 69号・70号・71号・72号」各戸配布 広報紙発行に関わる編集会議 累計16回		
社会福祉大会	善意銀行寄付者、福祉功労者の表彰、受賞者34名(団体含む)		
地域ケア推進事業	キーパーソン会議	事例検討、意見交換	計6回
	クイック調整会議	<在宅ケアチーム 32チーム>	5回
配食サービス	利用登録者数 193名	延べ 6,805名	利用
ふれあいサロン事業	自主活動サロン(42か所)	延べ 7,217名	参加
ふれあい訪問サービス		延べ 631名	利用
家族介護用品支給事業	支給者実人数 10名	延べ支給人数 54名	
子どもヘルパー派遣事業	交流事業・お手紙作成事業ほか	子どもヘルパー 25名	延べ488名参加
生活支援体制整備事業	買い物支援等意見交換会ほか	6回	
地域活動支援センター事業	農作業・外注作業など実施	実利用者 15名	
日中一時支援事業		延べ 1,077名	利用
子育て援助活動支援事業	利用延人数 85名	利用延時間 183.5時間	
在宅福祉サービス事業	利用人数 177名	利用延時間 768.5時間	
育児用品助成事業		延べ利用者 59名	
入学準備金支給事業	小・中学校入学祝い金支給	6名	
訪問理美容サービス事業	延べ利用者 14名		
紙おむつ配付事業	延べ利用者 261名		
ボランティア活動事業	福祉体験学習	小学生対象 福祉体験など3回開催	延べ53名参加
心配ごと相談事業	相談件数 73件		
居宅介護支援事業	実人数 273名	延べ 2,279件	
訪問介護事業	実人数 39名	延べ 317名	
通所介護事業	実人数 70名	延べ 552名	
障害者総合支援事業 相談支援事業 居宅介護事業	計画実人数 140名	延べ 338名	
	訪問実人数 7名	延べ 73名	
シルバー人材センター	受注件数 1,135件	延べ就業人数 5,211人	
デマンド交通事業	利用者計 11,166人	1日当たり 45人	
金婚者への記念品贈呈	金婚該当者 5組		
小口貸付事業	4件		
身体障害者補助犬飼育管理費補助事業	1名		
火災見舞金支給事業	2件		
福祉バス運行事業	高ク連利用 0回	他団体利用 3回	
自主防災組織活動補助事業	助成団体 9組織		
歳末たすけあい見舞金支給事業	独居老人 180世帯	要介護(4・5)世帯 2世帯	障がい者世帯 10世帯
	母子父子世帯 13世帯	準要保護世帯 0世帯	



笑顔の素敵な羽部輝子さん

特にコーラスは二つの団体に所属しており、所属団

羽部輝子さんは、平成6年から5年間ホームヘルパーをし、平成13年から17年間、民生委員・児童委員をされています。

現在は、城里町社会福祉協議会の広報紙「かざぐるま」の広報ボランティア、また近所の一人暮らしの高齢者訪問をされています。

ボランティアの意識が非常に高くいつも笑顔と優しい言葉で人に接しています。趣味は、読書、スポーツ（ゲートボール）、コーラスです。

現在は、城里町社会福祉協議会の広報紙「かざぐるま」の広報ボランティア、また近所の一人暮らしの高齢者訪問をされています。

特技は英会話で、50代の時に今は亡きご主人とたくさん

好きな言葉は「人と共に人生を楽しく生き抜こう」だそうです。誰にでも優しく、笑顔で接する姿は、私達の見本となる方です。

健康には十分注意されているようですが、過去に大病を患ったそうです。現在は、実年齢とは思えないバイタリティー溢れる元気な方です。健康のために毎日3,000歩を目標に歩いています。

また輝子さんは、ギター演奏で有名な寺内たけしさん(故人)と、小学校と中学校が同じ同級生で、「ター坊」「テーちゃん」と呼び合う仲でした。



踊り終えて満面の笑み

5月21日(日)、大子の初夏を彩る北関東最大のお祭りである、第20回「常陸国YOSAKOI祭り」に参加しました。



これを重ねました。思い通りにいかない悔しさもあり、汗と涙を流しながらも「またよさこいを踊りたい」という気持ちをモチベーションに頑張りました。

当日は気温が高いとの予報がありましたが、会場は気持ちのいい山風と時々厳しい日差しを遮る雲が流れて、練習の成果を存分に発揮することができました。

今回の「祭り」を通して、目標を持ち練習を重ねながら自分自身を高め、団体行動を通して仲間との一体感や思いやる心を育むことができました。

大きな災害が起こったら

大きな災害が起こった際には、災害ボランティアセンターを設置し、被災した方を支援してくれる災害ボランティアの方を受け入れます。災害ボランティアはどのような活動をするのか、準備するものは何か、災害ボランティアセンターはどのように運営されているのか一部をご紹介します。



支援する

災害ボランティア

地震・台風・豪雨などの自然災害が発生した際に、被災地のために支援活動を行うのが、災害ボランティアです。被災した地域の住民の方々が、元の暮らしに戻るようお手伝いします。災害ボランティア活動をする際には、何も準備せず被災地に行ってしまう、被災地の自治体に電話で問い合わせしてしまう等、被災地に負担をかけるような行動をしないことが基本になります。

【ボランティア活動の例】



がれきの撤去



炊き出し



泥だし



室内清掃

①「すぐに現地に行こう」は、被災地の災害復旧作業の妨げになることも!!

ボランティアの受け入れ体制が整っていない、被災地以外のボランティアを募集していないなど、受け入れ条件が被災地によって違いますので、必ず被災地にあるボランティアセンターが発信している情報を確認してください。



② 服装・持ち物

- 帽子・ヘルメット ○マスク ○軍手やゴム手袋 ○タオル
- 長袖・長ズボン ○着替え ○食べ物・飲み物 ○薬など

③ ボランティア活動をする前の保険加入を忘れずに

お住いの地域の社会福祉協議会で加入できます。出発前までに加入手続きをすませてください。準備ができれば、被災地のボランティアセンターへ向かいましょう。



サポートする

災害ボランティアセンター

被災地のボランティア活動をスムーズに進めるための拠点となる所です。災害ボランティアセンターの多くは、被災地域の社会福祉協議会が設置、運営しています。

【活動内容】

○被災地の状況把握と被災者の要望把握

被災地にチラシなどを配付するなど、被災者の要望の収集を行います。

○ボランティアの受け入れ調整(マッチング)

被災者のニーズに合わせて、ボランティアを希望する方を調整します。

○資材等の貸し出し

ボランティア活動に必要な道具等を貸し出します。

○ボランティアの派遣

活動現場までの送迎や交通手段の手配

○報告・振り返り

活動したボランティアの方は、活動した際に気づいたことや新たな被災者の要望などをセンターへ報告します。

ボランティアセンター

被災者の要望受付



支援してほしい場所



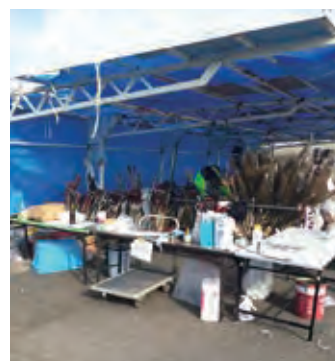
ボランティア派遣

ボランティア受付調整



オリエンテーリング
出発前の説明

資材・機材の貸し出し



石塚小学校で除草のボランティア活動を実施しました ～城里町シルバー人材センター・男塾～



休憩中に記念撮影

5月14日(日)、石塚小学校において、城里町シルバー人材センター及びボランティアグループ「男塾」の会員、合わせて16名が、除草作業を行いました。また、当日は、城里町シルバー人材センター理事長でもある、上遠野修社協会長も参加し、作業前には「怪我、事故のないよう注意して作業をしましょう」と挨拶。その後は、一緒に除草作業に汗を流しました。



草刈機で刈れない部分は手作業で



手際よい作業

皆さん、手際よく草刈り、草取り、片付けをこなし、短時間の作業でしたが、広範囲の除草を完了することが出来ました。

作業終了後、石塚小学校の海老根校長先生から、「刈り取りから草の片付まで、丁寧な作業に驚きました。ありがとうございました」と感謝の言葉をいただきました。

早朝、暑い中でのボランティア活動でしたが、皆さんの清々しい笑顔が印象的でした。



ほっと一息で笑顔

現在では、常北・桂・七会のそれぞれの地区に分かれて、町内の小学1年生から中学3年生までの児童生徒(本年度29名)が公民館に訪れて活動しています。



肩たたきの様子

当初は石塚小の児童(4、6年生)たちが那珂西地区で活動を始めましたが、子どもたちのボランティア精神やいたわりの心を育むことが狙いです。

子どもヘルパー派遣事業

城里町は2012年に「いばらき子どもヘルパー派遣事業(実施期間は2年間)」のモデル地域としての指定を受けました。同事業は、少子化や核家族化が進む中で、高齢者と子どもの世代間交流を促すとともに、子どもたちのボランティア精神やいたわりの心を育むことが狙いです。

サロン利用者の石川ミキさんは「子どもとふれあうと心があたたかくなる。肩たたきなどをしてもらうとうれしい。またサロンや子どもヘルパーの事業を行う役員の方は、毎回早く来て、夏は窓開け、冬はストーブをつけて待っていてくれます。いつも感謝しています」と話していました。



体操の様子

4月22日(土)には、那珂西地区の高齢者ふれあいサロン・なかさん会とお花見交流会を実施しました。ここでは、シルバーリハビリ体操や肩たたき、花飾り作成などを通じて高齢者と笑顔で交流しました。さらには、子どもたちは高齢者の昔の話を楽しそうに聴いたり、質問したりしていました。

お内裏様とお雛様の並べ方には皇室の儀である宮中饗宴の儀が元になり、



雛人形を制作している 孝雄さん

茨城県郷土工芸品の指定を受けました。現在は、孫の孝雄さんが後継者として県から認定を受け、雛人形の製作を受け継いでいます。自然の素材を使うことをコンセプトにし、わらわらに手足を付け、結城紬などの伝統的な織物を使った衣裳を着せる作業をして作成しています。

かつて雛人形は、水戸も代表的な産地でした。桂雛創業者である初代喜鳳、故小佐畑喜士は水戸で修業した後、城里町阿波山の地で製造を始めて、平成3年に

しろさと 伝統工芸「桂雛」

青山花しょうぶ園



6月1日(木)から20日(火)まで、山崎秀雄さんを代表とする花しょうぶ保存会と町観光協会の後援により、昨年までとは違う休耕田を利用した青山花しょうぶ園が開かれました。そこは一般道の脇にあり、道路より少し低く車からの眺めも良いところでした。



色とりどりのしょうぶの花

駐車場から、園の中央付近まで歩いていくと、年配の方にもやさしい長めのスロープがあり、その先にスロープの整備された園路がありました。園路の周りには紫、黄、白、ピンクそして紺色等、さまざまな色の花しょうぶが約70種、見事に咲いていました。手を額にかざして駐車場から全体

を眺めている人、花びらを手にとりてしみじみと觀賞している人、ゆっくりと歩きながら談笑している人達それぞれのスタイルで花を楽しんでいるようでした。蒸し暑い中、ベンチに腰を掛け、水分補給をされている人もいました。



採れたての野菜と花しょうぶ苗の販売

ふと、今こうして何気なく眺めているけれど、ここまでの維持管理には大変なご苦労があったのではないかと、思いました。道を挟んだ反対側では、保存会の方々が地場産のトマトやきゅうりなどの新鮮野菜の販売も行っていました。久しぶりに観た花しょうぶ園は、やはり心を爽やかにしてくれた場所でした。

手話を学ぶ 43

いろいろな地名の表し方 ⑤

梅雨特有の蒸し暑い日々の中、人の多く集まる所ではまだマスクの着用が必要で、息苦しさを感ずますが、今は自守が大切です。

「札幌」
両手の手のひらを下に向け、指を広げて重ね、右手を2回引く。



※札幌の整理された街路を表す。

「茅ヶ崎」
親指を立てた両手を胸の前におき前に出す。



※名裁判官の大越前守にゆかりがあることから「裁判」と同じ表現。

「名古屋」
両手の人差し指を向かい合わせ指を曲げながら左右に開く。



※名古屋城の金のシャチホコを表す。

「那覇」
親指を立てた右手を左の親指とほかの指の内側におく。



左手を下げて右手を上げる。



※左手は島を表し、右手を上げることで県庁所在地を表す。

「鳴門」
上向きにした両手の指を開いて並べ、交互にねじって下げる。渦潮を表す。



(すぐに使える手話辞典 6000より引用)

集めているもの

- ・子ども服、靴、帽子など(洗濯済みの物)
- ・城里町内のこども園、幼稚園、小学校、中学校の制服・体操服(洗濯済みの物)
- ・紙おむつ(未開封)
- ・未使用の文房具



※社会福祉協議会窓口へお持ちください。

子育て応援 プロジェクト
捨てないで!!子ども服
1度も着ていない、履いていない、数回だけ着て、着れなくなってしまう。子どもの成長により、着られなくなった洋服、靴などは捨てずにお持ちください。必要な子育て世帯に無償でお渡ししています。



佐竹 信義さん 82歳
 玲子さん 81歳
 阿波山

阿波山地区に住む佐竹信義さん、玲子さんご夫妻を訪ねました。

信義さん、玲子さんは、結婚して58年、40歳の時、現在の家に戻って来ました。その時、地元の方から「一緒に野球をやるう」と誘われ、その野球のお陰で地元で溶け込むことができ、「あの誘いは嬉しかった」と、しみじ

わが町の
さわやか元気さん
 (60)

大森 靖一さん 91歳 子
 京子さん 88歳 塩

「はい、どうぞ」明るく元気に迎えてくれた大森靖一さん・京子さんご夫婦。おふたりは、昭和33年に結婚し、3人の娘さんに恵まれ、現在は2人で生活しています。2年前から病氣療養中の靖一さんに代わり、京子さんが家業である精米、製粉の仕事をしています。近くに住む娘さんご夫婦の



手を借り、田畑も耕作しているそうです。京子さんは、シルバーリハビリ指導士3級の資格を

み話されていきました。信義さんは、溪流釣りが大好きで、子供達と一緒に出掛けた時が楽しかったと振り返っていました。信義さんは阿波山2区の区長を8年、更に民生委員、長寿会の会長などを歴任され、玲子さんは配食サービスの調理を10年以上、現在も続けています。昨年、信義さんは大病で入院しました。現在は元氣になり、毎日2,400歩を



目標に歩いていきます。阿波山サロンに参加し、これが他の参加者の励みになっています。これからも奥様と共に、元氣にお過ごしください。

七会地区では一番早く、70代で取ったそうです。現在は塩子サロンで月1回、指導を受ける立場で参加しています。配食サービスにも協力している京子さんは、車の免許も所持し、安全を心掛けて運転もしています。また、今は時間が取れず作れない趣味の押し絵ですが、すばらしい作品がたくさんありました。明るく京子さんをやさしく見守る靖一さん、とても仲の良いご夫婦でした。

社協会費のお願い

昨年度も社協会費の納入をいただき、ありがとうございました。

おかげ様で、4,434世帯の加入、2,200,000円。特別会員61名197,000円の納入をいただきました。

今年度も現在、各自治会長様にご協力をお願いしまして、御加入いただいております。

皆様ひとりひとりの思いやりが、町の福祉を支えています。重ねがさねご協力をお願い致します。

なお、納入いただきました会費は本会本部運営経費として、車両維持管理費811,107円、通信費390,204円、コピー機等機器リース及び保守費966,292円、事務消耗費144,751円、保険料292,188円に使用させていただきます。ありがとうございました。

目次

- 七夕 1
- 事業報告・収支決算 2
- きらっと生きる 3
- つくしの四季 3
- 大きな災害が起こったら 4・5
- 石塚小で除草ボランティア 6
- 子どもヘルパー 6
- しろさと 7
- 青山花しょうぶ園 7
- 手話を学ぶ 8
- 子育て応援プロジェクト 8
- わが町のさわやか元気さん 8
- 社協会費 8
- 目次・編集後記 8

編集後記

前回、講演会の取材で、小美玉市に伺った時、講演会場の座席には、ソーシャルデイスタンスのために、座っている妖精がひとつおきに描かれ、来場者は妖精の隣の座席に座り講演を聞きました。

コロナによる、外出規制が無くなった今、座っていた妖精達は、講演会場から飛び立ち、私達のこれから始まる楽しい時間を空から見守ってくれそうです。